

熊救協研修委員会

研修委員会では、年2回の職員研修会を実施しております。

■第1回熊救協職員研修会

平成20年6月19日(木)午前10時から、みゆきの里「和楽」にて『感染予防等について』をテーマに熊本県健康福祉部健康危機管理課矢野参事に講師をお願いいたしました。

感染の原因や予防及び対策についてとてもわかりやすいお話でした。また、午後から職種別によるグループ討議を実施し、積極的な意見交換が行われました。



■第2回熊救協職員研修会

平成20年10月23日(木)午前10時30分から、熊本大学医学部付属病院山崎記念館研修室において、熊本大学医学部付属病院神経精神科藤瀬昇先生による職員のメンタルケア等についての講話が行われました。

お話によれば、日本はうつ病の患者数が世界第1位で、およそ15人に1人が生涯にうつ病を経験するとのことでした。

うつ病については、まず誰でもなる病気だということを改めて教えていただきました。

また、ストレス社会となっている今、ストレスへの対処法を身につけることは、人が健康に生きていく中で重要だということを学ばせていただきました。

対人専門職には、特に燃え尽き症候群になり易く、私たち福祉関係者も他人ごとではないと痛感しました。



熊救協ホームページ <http://kumakyukyo.sakura.ne.jp>

熊救協2008 No.13 編集後記

調査研究委員会の委員になり、早2年が過ぎようとしています。長いようで短かった2年間でした。他施設の委員とのコミュニケーションを図り、いろんな学習ができ大変よかったと痛感しております。

千草寮も2009年4月には民間委託になり新たな職員でスタートする予定です。

定年まで千草寮で仕事をしなかったのですが…残念です。 

今後とも、熊救協調査研究委員の御活躍と施設利用者の方々の御健康をお祈りいたします。

本当にありがとうございました。

《熊救協調研委員：大嶋みや子(千草寮)》

熊本県救護施設協議会

熊救協

<http://kumakyukyo.sakura.ne.jp>

2008年12月号[No.13]



【ご挨拶】

熊本県救護施設協議会調査研究委員長 三宅 浩徳



今年も残すところ後数日となりました。新年が皆様方にとって輝かしい年となりますよう心からお祈りいたします。

さて、広報誌「熊救協」は平成15年1月に初刊され、今回で13回目の発行を迎えております。この広報誌は、熊本県救護施設協議会の中に組織化された「調査・研究委員会」の手によって発行され、私も微力ながらも第2号から携わらせていただいております。発行に当たりこれまでお世話になりました皆様方へ、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

現在、県本庁(社会福祉課)をはじめ、県内の福祉事務所、県社会福祉協議会、県内救護施設等へ発送し、昨年9月に開設いたしました熊救協のホームページの中でもバックナンバーを含めて公開いたしておりますが、先日開催されました熊救協施設長会議の中で「発送先の拡大」が論議され、その結果、県内の精神科病院、九州地区の救護施設へも発送させて頂くことになりました。出来るだけたくさんの方々の関係機関の皆様方にご覧いただき、救護施設の状況をより一層ご理解いただくために送付させていただきますので、熊本県救護施設協議会のホームページ同様、ご覧頂きますようよろしくお願いいたします。広報誌、ホームページ等を通じて、より良い情報を発信できるよう委員一同頑張っておりたく思いますので、今後ともご支援、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

各施設トピックス

【しらがね寮】～「寺子屋塾」の子ども達との交流会～

今年も又、元気な子ども達がしらがね寮へやって来ました。あさぎり町免田吉井地区「寺子屋塾」子供会30名が、まだ陽射しの強い秋の土曜日、しらがね寮グラウンドにおいてグラウンドゴルフをして交流を行いました。「寺子屋塾」では月に一度、地区のコミュニティセンターでボランティアの方々を中心に子ども達を集めて昼食やおやつ・レクリエーションの提供をされておられます。

最近では生活環境が希薄化する中、このような地域コミュニティの一環としての取り組みはすばらしいことと思われます。そういうなか交流の要望を受け、私共も地域行事を通じて少しでも当施設が社会に貢献出来たらと思います。利用者の方々は、特に子供が大好きです。初めて握るグラウンドゴルフのスティックに右往左往する子ども達に対し温かいまなざしで言葉をかけておられました。色のついたボールはどこまでも飛んで行き、子ども達の声が秋の空まで響き渡り、利用者の方々へ大きなパワーを与えてもらった、貴重な一日でした。



編集：熊本県救護施設協議会
調査・研究委員会
発行：熊本県救護施設協議会

事務局：〒861-2401 熊本県阿蘇郡西原村鳥子3072
真和館 Tel (096)279-1121
Fax (096)279-1122

【友愛会銀杏寮】～チャレンジ!おおいた大会～

ふうせんバレーボールは障がいのある人もない人も、また障がいの種別や程度に関係なく、年齢や性別に関わらず全ての人が参加し楽しめるスポーツとして普及しています。(1チーム6名)

『チャレンジ!おおいた大会(第8回全国障がい者スポーツ大会)』が大分県宇佐市で開催され、銀杏寮でも利用者・職員にてチームを編成し参加しました。

全国障がい者スポーツ大会に初めて「ふうせんバレーボール」がオープン競技として採用され、全国10都府県(政令市含む)全35チームが出場しました。

会場の雰囲気やや緊張気味ではありましたが、各チームにボランティアが配置され、とても和やかに試合を行うことができました。

予選を経て午後からクラス別決勝トーナメント(山パート)に出場。大阪のチーム等と対戦し、準決勝で敗退しました。3位決定戦でも敗れ4位という結果でした。しかし練習時間がほとんどとれなかった事もあり、予想以上の結果に皆満足そうでした。



【菊池園】～自立生活を目指し、ボランティア活動始動～

菊池園入所中の方で個人活動可能な17人の皆さんと9月から、地域ボランティア(除草作業と児童下校見守り)を始動しました。

除草作業は泗水総合支所の前の歩道から行い、下校見守りは交通安全協会、学校、PTA、育成会の方々と検討を行い、地域の横断歩道やスクールゾーンの見守りを始めました。

開設当初から奉仕活動の一環で、空き缶拾いや体育館清掃、孔子公園清掃は行っていましたが、グループでの活動は今後就労に結びつけばと思い始めてみました。作業をされている時の皆さんの真剣な表情を家族の方々や会社の人にも見てもらえればと感じています。

『継続は力なり』これからも一生懸命頑張ります。
(ボランティアリーダー)



【千草寮】～千草寮農園開園～

利用者の希望により千草寮農園を開園することになりました。12名の利用者でスタートすることとなり、まず畑の区画整備から始まり、一人ひとりの畑を決め何を作りたいかの聞き取り、そして職員が同行しての苗や種の購入、汗を流しながら植え付けをしました。虫の被害や雨に打たれ苗が枯れ植え替えをしてやっと育てあげ収穫をする事ができた時の喜びは格別なものでありました。また草取り、肥料やりなどそれなりに楽しみながらの作業でした。

四季を通じての玉ねぎ、ほうれん草、高菜、ブロッコリー、きゅうり、トマト、ナス、ピーマンなどの収穫があり自分たちで作った野菜が調理され献立に出てきた時の喜びを感じ、味わいながら「おいしい。おいしいね」との笑顔で会話が本当によかったです。又、あまりに可愛がりすぎたのか豆は花は咲いたのですが全然実がなりません。本当は1回でも食べてもらいたかったがそれも出来ませんでした。悲しい～が利用者はくじけません。次は何を作りたいとか、私は何々を作りたいなどの話題がたえません。なかには園芸クラブをやめたいという利用者もありますが、リハビリのつもりで頑張るようにと励ましの言葉をかけているところです。秋になり、畑を耕し次の野菜作りの準備も楽しみの一つになりました。



【真和館】～スポーツの秋～

体を動かすことが、体の健康は勿論のこと、心の健康にもとても良いということが最近わかって来ました。そこで、真和館では工夫を凝らしたメニューを組み立てています。その一つとして、春と秋の年2回スポーツ大会を行っています。今回は10月に開催された「秋のスポーツ大会」を紹介します。

どなたでも参加が出来るように、グランドゴルフ、ダーツ、卓球、ペタンクの4種目の競技を開催しました。入所者の皆様にとっては、普段の日常生活とは違い緊張する場面もあり、とても良い刺激になったと思います。また、参加された方のほとんどが勝敗は別にして、楽しい時間を共有することが出来たようでした。競技の後は、皆さんが毎回楽しみにされているバーベキュー大会を野外で行いました。幸い良い天気に恵まれ、青空の下でおいしくいただきました。



【天草園】～社会見学～

利用者の施設生活の中で、社会見学は最も楽しい行事ではないかと思われます。以前は、1班のみによる温泉旅行を実施していましたが、利用者の高齢化・重度化により参加人数が減少、出来るだけたくさんの利用者に参加頂けるよう近場の旅行を追加。その後、時代や利用者の変化とともに社会見学に対するニーズも多様化しているため、数年前よりコンサートコースやプロ野球観戦コース・大相撲観戦コース等を追加、年度当初に希望するコースを選択して頂き、実施可能な人数に達したコースを実施しています。

今年は、温泉コース1(天草市内・下田温泉)・温泉コース2(天草市外・阿蘇内牧温泉～熊本城)・コンサートコース(美川憲一・都城～霧島温泉～生駒高原)を実施しました。各コースともにそれぞれに希望した内容であること、又、少人数による社会見学となり、たいへんゆったりとした雰囲気の中での旅行が楽しめ、色々な面からたいへん喜んで頂けたと思われます。今後も出来るだけ利用者のニーズに答えられる様な社会見学を計画し、楽しみのある施設生活を提供することが出来ればと思います。



コンサート班 ▼ 生駒高原



温泉コース2班 ▼ 熊本城

【野坂の浦荘】～喜びの収穫～

作業訓練の一環としての農作業で、野菜(大根・じゃが芋・玉葱・高菜等)や柑橘類(甘夏みかん・デコポン・清見等)の栽培をしています。2,3年前から、いのししの被害に遭い少なめの収穫になっていましたが、電気柵対策の効果もあったのか、今年は「喜びの収穫」となりました。収穫した作物は施設給食の食材やおやつとなり「自分達で収穫した作物だから、とても美味しい」との声も聞かれ、また多少なりとも地産地消の実践ができております。

高齢化により参加者が少なくなったとはいえ、それでも15、6人の利用者の方が参加しています。青空の下、不知火海を眺めながらの作業は良き癒しの時間となり、また残存機能の維持や生き甲斐に繋がっているようです。これからはみかん類の収穫が始まるため、利用者の皆さんも楽しみにしておられます。

